

警察庁ホームページ

(<http://www.npa.go.jp>)

抜粋資料

# 警察の活動 ①救出・救助



- 「広域緊急援助隊」や機動隊が生存者の探索・救出を実施。災害救助犬も活用。
- 警察ヘリにレンジャー部隊が同乗し、地上から接近できない現場で救出・搬送を実施。
- これまでに約3,750人の被災者を救出。



## 事例



3月20日(日)、宮城県石巻警察署の警察官4人は、倒壊家屋から助けを求める16歳少年と80歳女性を発見、消防と協力して被災から9日ぶりに救助しました。

## 事例



3月12日(土)、仙台市荒浜地区で広域緊急援助隊(警視庁)が孤立集落を発見。現場は津波の影響で水浸しの状態であったため、隊員が数珠つなぎとなり、孤立者を順次救助しました。

# 警察の情報通信



余震が続く中、高所での応急措置作業

- 電気通信事業者回線が不通となり、携帯電話も通話困難となる中、警察の情報通信は、情報通信職員の機動力ある活動により、その機能を維持。
- 被災現場の映像を警察庁や首相官邸等に伝送するなど、迅速かつ的確な救出救助活動等に貢献。



被災現場の映像を伝送する情報通信職員

## 事例



情報通信職員は山中の無線中継所等に徒歩で登り、燃料補給を行うなど懸命の作業を行いました。また、原発事故に伴う避難指示を警察無線を通じて自治体に伝達するなど、警察の情報通信は「最後のよりどころ」となっています。

## 事例

岩手県陸前高田市(市役所付近)

災害前



©DigitalGlobe

災害後



©GeoEye/日本スペースイメージング株式会社

衛星画像により被災の実態を把握するとともに、東北3県警察、官邸危機管理センター等に衛星画像を提供し、被災地における救出救助活動等に活用されました。

# 被災地での警察を取り巻く状況 ① ～警察施設等の被害～

- 東北3県を中心に警察施設や車両等に大きな被害が生じました。通信施設も被害を受けましたが、警察の無線通信網は、停電中の無線中継所への燃料補給や応急措置によりその機能を維持し、自治体への避難指示の伝達にも活用されました。
- 被災地では数多くの警察職員が活動していますが、衣食住いずれも不十分で、装備資機材にも不自由する中、さらに、現地職員は自らも被災しながらも、懸命の活動を行っています。

## 【警察施設等の被害（東北3県）】

### 警察本部

- 宮城本部、福島本部(本庁舎・東分庁舎)が被害、現在も福島本部 東分庁舎が使用不能

### 警察署

- 岩手14署、宮城24署、福島20署・4分庁舎が被害、現在も岩手1署(釜石)、宮城2署(気仙沼・南三陸)が使用不能

### 交番・駐在所

- 岩手56か所、宮城120か所、福島57か所が被害、現在も大船渡警察署高田幹部交番を始めとして43か所が使用不能

## ※阪神・淡路大震災時の被害 (兵庫県)

- 警察本部：本庁舎・3分庁舎が被害
- 警察署：38署が被害
- 交番・駐在所：237か所が被害
- 車両等：車両77台等が被害

### 車両



68台

### 船舶



3隻

### 航空機



2機

釜石警察署

交通機動隊・沿岸分駐隊



沿岸運転免許センター



大船渡警察署高田幹部交番